

重点プロジェクト

1 循環による価値向上プロジェクト

自然環境や農林水産業、家庭や事業所などから生み出される産品やバイオマス⁴⁷資源を地域内で加工し、販売展開するなど、市内の「まち」と「むら」にある資源を相互に有効活用することで高め合う関係を構築します。このことによって、地域内の産業連関を高め、地域経済の活性化を図りつつ、農地の有効活用や環境負荷の軽減などを推進します。

(取組の例)

- ・ 6次産業⁴⁸化（第1次産業、第2次産業、第3次産業の連携）による地産地消²⁹（商）の促進
- ・ 市の特産品開発と販売促進
- ・ 市街地における生ごみの堆肥化・飼料化と農林水産業での活用
- ・ 農林水産業による廃棄物を活用したリサイクル⁴⁶（新エネルギー⁴⁹利用を含む）の推進

2 交歓による助け合いプロジェクト

中山間地における里地里山²⁰・棚田保全や除雪活動、市外との交流イベントなどに対し、市街地に住む人々が健康づくりやレクリエーション活動の一環として参画したり、中心市街地における農産物の販売や市外との交流イベント等に農山漁村地域に生活する人々が同様に参画するなど、市内の「まち」に住む人と「むら」に住む人が助け合い高め合う関係を構築します。

(取組の例)

- ・ 市民農園での活動を通じた交流の促進
- ・ 棚田・植林・除雪サポーター制度の確立
- ・ 鳥獣対策を兼ねた里地里山の保全イベントの実施
- ・ 中山間地や中心市街地における交流イベントへのスタッフ参加
- ・ 企業のレクリエーション活動や社会貢献活動の一環としての交流活動の促進
- ・ 健康づくりや地域福祉を充実するための人的ネットワークの確立
- ・ 農山漁村地域の戸建住宅と市街地のマンションとの住まい交換の仕組みづくり
- ・ 市内における二地域居住³⁰の促進
- ・ 地域通貨等を媒体とした交歓の仕組みづくり

第3節 広域的な交流による「上越サポーター」の獲得

様々な目的を持って当市を訪れる人々に対し、その他の来訪者や市民との交流機会を創出し、その出会いや交流が当市への印象を深め、さらなる関係へとつながるような誠意あるおもてなしを行います。対象者には、観光客にとどまらず、出張者、帰省客などの多様な来訪者に加え、大学生や単身赴任者などの一時的な居住者も想定し、情報交流・交流・二地域居住³⁰・定住の相互連携を円滑に推進します。

一方、当市が有する特性や重点的に取り組むテーマについて、切磋琢磨し補完し合える他都市との連携を進めるなど、まちとまちとの交流も推進します。

このことによって、観光・交流関連産業の活性化に加え、当市をお気に入りのまちとする「ファン」や、当市のまちづくりを様々な側面から支援する「サポーター」、人やまちを共に育み支え合う「パートナー」が増えていく状態を目指します。

基本方針

- 集客施設やイベント等に訪れた人に対し、市内のその他の魅力をPRしたり、対象者に合わせて多様な地域資源¹⁷を組み合わせたテーマ設定を工夫することなどにより、来訪者の滞在時間や訪問回数の増加、交流の通年化を目指します。
- 上越市への思いをつなぎ深めるのは人との出会いや交流であるとの視点に立ち、来訪者のニーズを十分に把握しながら、その他の来訪者や市民との交流機会の創出に努めます。
- 人やまちとの交流相手やテーマを選定する際には、当市が有する特性や重点的に取り組むテーマ、相手先のニーズを踏まえ、相互に補完し切磋琢磨し合える持続性のある関係の構築に留意します。
- それぞれの集客施設やイベント等において、上記の取組を個々に進めるのではなく、体系的な共通基盤をもって効果的・効率的な実施に努めます。
- 経済効果は来訪者の満足度の対価として得られるものであるとの視点に立ち、まずは継続的な交流が図られること（リピーター⁵⁰化）に力点を置きます。
- 物や情報を通じた交流から、観光やビジネスなどを目的とした交流・短期滞在、他の地域の住民が定期的・反復的に当市に居住する二地域居住、そして定住へのステップアップを円滑に実施できる仕掛けを構築しつつ、定住人口の増加に固執せず、多様な人口の獲得を目指した重層的な取組を進めます。

主な効果

【直接的に目指す効果】

- ・（人との交流を通じた）生きがいつくりや地域の活力向上
- ・（地域外からの「外貨³⁴」獲得による）地域経済活性化
- ・（交流産業の活発化を通じた業種の多様化による）雇用の場の創出

【結果として達成する効果】

- ・ まちづくりの支援者獲得
- ・（来訪者からの評価等を通じた）上越市に対する愛着と誇りの向上

重点プロジェクト

1 ちょこっと上越・おためしプロジェクト

様々な経緯で当市のことを認知したり訪れる人々に対し、当市への好印象度を高めるとともに、情報交流や交流人口の拡大、滞在時間や滞在回数の増加に向けた取組を推進します。

(取組の例)

- ・ 市内特産品の生産者と都市部の消費者との交流の促進
- ・ 特定目的の来訪者に対する市内回遊や再訪問を促進するPRの推進
- ・ 出張による来訪者に対する兼観光、アフターコンベンション⁵¹の推進
- ・ 農業や雪国の楽しさを体験できるイベントの実施
- ・ 都市部の住民を対象とした田舎体験、ワーキングホリデー⁵²の実施

2 じっくり上越・ほんもの体験プロジェクト

当市への好印象を持っていただいた人々に対し、当市の良さを本格的に体験していただくため、短期滞在や二地域居住³⁰、定住促進につながる取組を推進します。

(取組の例)

- ・ 都市部の大学生、市内大学生と地域住民との交流の促進
- ・ 国内外の姉妹都市との様々な交流の促進
- ・ 雪国文化をテーマにしたイベントの実施
- ・ 就農希望者を対象とした農業塾の開催や就農場所のあっせん
- ・ 新規定住に向けた側面的支援

3 広域的都市連携プロジェクト

当市が有する特性や重点的に取り組むテーマについて、相互に補完し切磋琢磨し合える他都市との連携を推進します。

(取組の例)

- ・ 周辺都市や広域交通ネットワーク沿線都市との観光連携
- ・ 周辺都市との生活・都市機能¹⁸の相互利用
- ・ 国内外の姉妹都市との経済交流
- ・ 中山間地活性化や環境政策などに熱心に取り組む自治体との政策交流

第4節 にぎわいを生み出す空間をつくる「まちの陣形」の強化

市内各地区が個性をいかすことによって、歩いて楽しく、にぎわいの要素を持ったまちの中心的空間を創出します。また、それらを有機的に結んだ交通ネットワークを上越市の骨格と位置付け、一体的な構築を行います。

このことによって、機能的な公共交通ネットワークが確保され、市内の各地区を円滑に移動・交流できる状態を確保するとともに、人の密度が高いにぎわいのある空間が創出され、各地区の個性を守り育てることができるよう、「まちの陣形」を強化します。

基本方針

- かつて繁栄を遂げていた地元の商店街や公共交通機関が、経済のグローバル化やモータリゼーション⁷の進展、市民ニーズの変化などによって衰退してきた要因を十分に踏まえ、単にその復興を目指したり、自家用車を中心とした社会を否定したりするのではなく、歩くことや公共交通機関の利用による多面的な効用を最大限発揮させることによって、最終的に歩きやすい空間や公共交通機関が自家用車と共存できる姿を目指します。
- 各地区における人が集う空間や機会の創出、そのような空間と交通拠点との融合、公共交通機関の魅力度の向上、公共交通機関を利用した魅力的なライフスタイルの提示を一体的に実施することで、各地区の中心地のにぎわいと公共交通機関の利便性の双方が高まる好循環を形成します。
- 各地区の個性をいかし、他の地区との切磋琢磨による空間形成を促進する一方で、地区間で過度な競合関係が発生することによって都市機能¹⁸や歴史・文化的資源が喪失し、結果として市全体の魅力低下につながることを防ぐよう、一定の役割分担に基づく連携体制の強化を行います。
- 基本構想第4章の「土地利用構想」において示す都市構造の実現に向けた取組としても位置付けます。

主な効果

【直接的に目指す効果】

- ・ 各地区のにぎわいの場（魅力的な公共空間）の創出
- ・ 市内の移動制約者⁵³や来訪者の移動手段を確保することによる交流促進
- ・ 各地区の個性の追求と市全体の魅力向上

【結果として達成する効果】

- ・ まち歩きの促進による地域の再発見
- ・ （自家用車利用機会の減少による）環境保全や健康づくりの推進
- ・ まちづくりの拠点づくり
- ・ （めりはりのある都市構造の実現による）災害に強い都市構造の構築と災害時対応の円滑化
- ・ （めりはりのある都市構造の実現による）市の財政運営の健全化

重点プロジェクト

1 まちなか公共空間再生プロジェクト

市の玄関口と中心市街地とをつなぎ、市街地内を効果的に巡る利便性の高い公共交通ネットワークを確立するとともに、駅を中心とした公共公益施設³⁷や商業施設、住宅などの立地を促進します。また、歴史的な資源やまちなみ、都市的・芸術的な活動をいかした集客の仕掛けづくりなどを行います。このことによって、市内から多様な人々が集まり、にぎわいを創出できる空間形成を行い、上越市の“かお”としての中心市街地を再興します。

(取組の例)

- ・ 中心市街地や駅周辺における集客施設の立地促進
- ・ まちなか居住の推進
- ・ 歴史的なまちなみを活用した集客イベントの実施
- ・ ゲートウェイ（市の玄関口）と中心市街地とを結ぶ利便性の高い鉄道の確立
- ・ バス路線及びダイヤの再編
- ・ 商業振興、環境保全、健康づくりなどの取組と連動した公共交通機関の利用促進

2 地域の茶の間再生プロジェクト

日常生活を営む上で必要最低限の機能が歩ける範囲内に集積した空間の確保や、そこでのにぎわいを創出します。また、生活拠点と地域拠点、都市拠点を結ぶ基幹的公共交通や、生活拠点と各集落とを結ぶ小回りの利く地区内公共交通のネットワークを確立します。このことによって、各地区の個性を醸し出し、その地区の住民が気軽に集うことのできる、各地区の“茶の間”としての中心地を再興します。

(取組の例)

- ・ 多様な人々の交流を意識した集客機能（教育施設、福祉施設、交流施設など）の近接立地の促進
- ・ 農と親しむライフスタイルの実践を追及した居住空間の整備
- ・ 魅力的な景観形成に向けた好循環を確立する仕掛けづくり
（市民主体の魅力的な景観形成に対する支援、景観コンテストの実施、景観情報誌の発行等）
- ・ 生活機能や集客・交流機能と駅の融合（「さとの駅」の整備）
- ・ 一定のサービスレベルを担保した基幹系公共交通の確立
- ・ 乗合タクシーや過疎地有償運送の導入による地区内の公共交通機関の確立

第5節 学びを生み出す空間をつくる「上越学」の確立

市内に存在する多様な地域資源¹⁷を活用することによって、生きるために必要な食や環境などに関する知識、当市の魅力や個性、まちづくりの課題についての知識、発想力や専門性を強化するなりわい²⁸を生み出す知識などについて、気軽に楽しみながら、または潜在的に学べるようなテーマ設定やカリキュラム³²づくり、環境づくりを行います。

このことによって、一人でも多くの人々がこれからの時代を生きていくために必要な力やライフワークを習得しつつ、地域資源とのかかわりを通じて地元への愛着と誇りを育むことのできるような「上越学」を確立します。

基本方針

- 学びに対して直接的に興味を持たない人々であっても、気軽に親しみを持って楽しくかかわれるようなきっかけづくりや、景観等を通じて人の五感へ訴えかける潜在的な学習効果を引き出すなど、一人でも多くの市民が日常的に学びを実現できる環境づくりを進めます。
- 学びの成果を確実なものとするためには、実体験をもって継続的に深く学ぶことが必要であるため、様々な体験活動を組み込んだカリキュラムを作成します。
- 市内の文化財や偉人など、個々の地域資源に対して既に一定の興味を持つ人々を対象とした、その地域資源に関する知識を深める学習機会の提供とは別に、その地域資源が生み出された風土や地域資源の活用による学びの可能性を引き出し、メッセージ性のある学びのテーマに合わせて複数の地域資源を体系化します。
- 文化財や教育文化施設、豊かな自然環境など、様々な地域資源を固定的に取り扱うのではなく、時期やテーマ、想定する対象者などに応じて、変化のある表現方法や組合せを行うことにより、多種多様なカリキュラムを実現します。
- 市民が学ぶことを基本としながら、そのサポートを行う人を市外から招いたり、その学びを観光振興や交流促進のツールとして活用することも視野に入れます。
(⇒ 重点戦略3 「上越サポーター」の獲得)

主な効果

【直接的に目指す効果】

- ・ (食育⁵⁴、環境教育、防災教育などを通じた) 今後の時代を生きるために必要な能力の習得
- ・ 健康づくりや生きがいづくり
- ・ 学びを通じた創造力や発想力の強化

【結果として達成する効果】

- ・ 地域文化の再認識と地域に対する愛着と誇りの向上
- ・ まちづくりを担う人材の発掘と育成
- ・ 学習活動を通じた交流促進

重点プロジェクト

1 上越キッズスクールプロジェクト

子どもたちの好奇心を刺激し、心豊かでたくましい子どもたちを育てるため、各地区の地域資源¹⁷を活用した特色ある知的探究活動で構成される活動プログラムを推進します。また、子どもたちがそこで培った成果を発表する機会等を創出します。このことによって、学校での学びだけでは習得できない“一芸”を身に付け、そのことによる自信とふるさとへの愛着・誇りを持った子どもたちを育む空間形成を行います。

(取組の例)

- ・ 自然環境や歴史的資源、伝統文化などを素材とした子ども向けの学習の場づくり
- ・ 遊びを通じたまちづくり学習や職業教育を可能とする子ども向け模擬都市づくり
- ・ 学習の成果発表の場を兼ねたミニ学会やイベントの開催

2 上越まるごとキャンパスプロジェクト

上越市全体を「キャンパス」に見立て、歴史・文化的資源や豊かな自然景観、伝統的行事や特色ある活動、さらには当市の抱える固有の課題についても学びの素材と位置付けます。その上で、メッセージ性とレジャー感覚を兼ね備えたカリキュラム³²へと加工し、継続的に成果を積み重ねていく講座やイベント等を市内で一体的に実施します。このことによって、絶えず進化し、いつでも楽しく学ぶことのできる空間形成を行います。

(取組の例)

- ・ 雪国文化、環日本海の問題等、当市固有のテーマに基づく企画展の開催（市内全域で同時期に共通のテーマをもって実施）
- ・ 地元の食材を用いたコンテストなど、楽しい食育⁵⁴イベントの実施
- ・ 地域資源を用いた発明コンテストの実施
- ・ インフラ¹⁹の役割や重要性の理解を促進する仕掛けづくり
- ・ まちづくりにおける様々な課題をテーマとした講座の開催
- ・ 地元の産学官連携による学習カリキュラムの作成